



国際文化政策研究教育学会 会員各位へ、「学会通信」第3号をお送りいたします。

みなさま、お元気でお過ごしでしょうか。

桜の季節も、あっという間に終わりました。新学期、新年度を迎え、皆様には何かとお忙しいことと存じます。せっかく解除されました緊急事態宣言でしたが、蔓延の再拡大を防ぐために、都市部を中心に、再び「まん延防止等重点措置」と「緊急事態宣言」が発令されました。皆様には、引き続き不自由な生活となりますが、お身体ご自愛のうえ、ご活躍ください。

今月号のトピックス

① 研究交流集会開催結果のお知らせ

3月20～21日の「研究交流集会」も無事終了いたしました。初めてWEBでの開催となりましたが、トラブルもなく、盛会裡に終わることができました。参加された学会員の方々にお礼申し上げます。また、結果報告を掲載していますので、当日参加されなかった方にも、ご参考にしていただけたらと思います。全体内容と詳細はデータで添付しています。

（参考）2021/3/20-21 国際文化研究教育学会「研究交流集会」の詳細

総合司会：中谷武雄（補佐：白石智宙）

1日目：3月20日（土）
開会・学会長あいさつ
研究発表会 ①倉橋弘美：プログラミング教育を通じた地域創生と知の形成 ②紅谷正勝：飛騨高山大学地域経済学科＜仮称＞設立準備概観 ③小宮弘信：ウィリアム・モリスのレッサーアート論 ＊司会：岩田均先生から結果の報告は こちら 。
昼休み 池上会長と語ろう会 池上先生の元気なお姿を拝見しながら、先生の近年の研究にまつわる興味深いお話、参加者の懐かしいお顔、近況報告、池上先生への研究助言などが活発に行われ、1時間があっという間に終了しました（参加者 13人）。 （司会：富澤公子）
働学研（博論・本づくり）研究会（参加者 34名） 第1分科会「文化的&創造的な地域・産業づくり―杉山・富澤本書評会」 ・杉山友城[2020.2]『地域創生と文化創造―人口減少時代に求められる地域経営』晃洋書房 ・富澤公子[2020.6]『長生きがしあわせな島＜奄美＞』かもがわ出版 著者2人（杉山・富澤）が相互に書評&リプライしあう。それを基に、議論する。 ・コメンテーター：太田信義

第2分科会「資本主義と人間発達 ―生産力&物質代謝論の新地平」

- ・平松民平:「生産力と進歩史観への視座―齊藤幸平『人新世の「資本論」』を斬る」
- ・澤稜介・木林威夫:「ICTが促す産業・社会・労働の変容」
- ・十名直喜:「ICTと生産力・技術・労働・物質代謝論 ― 平松民平「資本主義とICT」論をふまえて」

第3分科会「環境・経営・家族 ― 女性の眼差し」

- ・程 遠紅:「中国ごみ問題の博論体系」
- ・井手芳美:「歴史上の偉人に学ぶコーチング論―企業の人材育成に向けて」
- ・横田幸子:「人類進化と家族 終章まとめ」
- * 司会:十名先生から結果の報告は[こちら](#)。

2日目: 3月21日(日)

三都物語の執筆関係者の意見交換会

「生命、自由、幸福の生活と地域づくり―京都、神戸、遠野・気仙の三都物語
―神戸・京都・岩手の3元ネットワーク」

- ・池田清:はじめに 研究会発足、研究成果出版企画の経緯
- ・池上惇:なぜ、いま、京都・神戸・遠野、気仙なのか
- ・金井萬造:京都のまちづくりと地域文化資源を生かした着地型観光手法の展望
- ・池田清:生命、自由、幸福の生活と地域づくり―京都、神戸、遠野・気仙の三都物語
- ・千葉修悦:源流にある未来―逆境をしあわせにかえる人びと
- ・藤井洋治:三都 in 遠野・住田から『私の遠野物語』
- ・白石智宙:遠野から考える内発的発展
- * 司会:中谷武雄先生から結果の報告は[こちら](#)。

コーヒープレイク:

テーマを決めないで自由に、終始アットホームな雰囲気、行われました。初めてお顔を拝見する方もあり、お互いに挨拶したり、研究報告をしていただいたり。限られた時間でしたが、このような距離感を感じない交流もWEB開催の良さと感じました。(参加者8名) 司会:富澤公子

書評会

- 「学びあい・育ちあいの地域・産業づくりへの視座―池上惇『学習社会の創造』書評会」
- ・十名直喜:「書評 池上惇『学習社会の創造』」
 - ・中谷武雄:「『There is no wealth but life』と文化資本論 ―池上惇『学習社会の創造』をめぐって」
 - ・富澤公子:「池上惇先生と学生の対話:『学習社会の構築』の講義を聞いた学生の授業前と授業後の変化」
 - ・白石智宙:「財政循環の理論と実践」(博士論文内容の紹介)
 - ・池上 惇:「書評・コメント等へのリプライ」
 - * 司会:藤岡純一先生からの結果の報告は[こちら](#)。

文化資本研究会(海・里・山の循環)

岸本正美 文化セミナー:岸本の最近の研究紹介(地域文化史)

浅沼亜紀子・宮良千加 琉球染織 花藍舎からの報告

千葉修悦 住田のふるさと創生大学の歩みと挑戦

岸本直美 文化セミナー:最近の研究紹介(食文化とまちづくり)

金井萬造 文化資本研究会(海・里・山の循環)の取り組みの総括と課題

* 司会:金井萬造先生の結果の報告は[こちら](#)

閉会あいさつ (中谷武雄)

② 池上惇会長のアカデミア賞受賞式の様子

令和2年度アカデミア賞授賞式が、令和3年3月27日(金)、都ホテル京都八条「末広の間」において開催され、池上惇会長が出席しました。以下、全国日本学士会 (<http://academic-soc.jp/activity/>) HP からの抜粋です。授賞式、詳しくは、令和2年度アカデミア賞授賞式を挙行了しました。 (<http://academic-soc.jp/news/>)、選考経緯は、令和2年度受賞者決定 (http://academic-soc.jp/activity_cat/prize_member/) をご参照下さい。



受賞記念講演原稿が以下に収録されています。池上 惇「固有価値・地域文化資本」研究による「都市・地域振興；生涯学習・研究システム」の構築」Academia：会誌(180), 31-41, 2021-02

(岩手・住田)東海新報に掲載されたふるさと創生大学運営委員:千葉修悦さんの受賞お祝い記事をご紹介します。

土倉を生きるアカデミア賞

池上惇京都大学名誉教授が受賞

ふるさと創生大学運営委員 千葉 修 悦

ギリシャの哲学者プラトンがアテナイの郊外に創設した哲学学校「アカデミア」の名は、日本においても不朽の意義を有している。

「アカデミア賞」は、神聖な名称を冠することで、最高の栄誉と称賛を伝えるにふさわしい賞として、一般社団法人全国日本学士会が昭和24年に制定した。この賞は、戦後の日本を代表する各界の有能な人物に与えられてきた。そのひとりに松下幸之助も名をのぞいている。

令和2年度には、池上惇京都大学名誉教授が受賞した。池上先生は、国際文化政策研究教育学会会長、一般社団法人文化政策まちづくり大学校代表理事を務められていると同時に、ふるさと創生大学の学長でもある。池上先生の受賞理由は次のとおりである。

「社会の貧困と差別排除の構造



を解明し、スタートラインの平等と文化格差の克服の道を見いだす

など、財政学並びに文化経済分野において数々の優れた業績をあげるとともに、その成果を社会に還元し、地域社会の貴重な文化を文化資本と位置づけ、地方と都市を結ぶ生涯教育と生涯研究の拠点となる『ふるさと創生大学』を立ち上げるなど、地域振興と生涯教育の発展に多大な貢献を果たした」ことである。

ふるさと創生大学の開校から3年、池上先生から気づかされ、教えられるのは、人としてのありようである。それは、一人一人を尊重し、他人を思いやる精神を育み、あうことの大切さである。先生は誰にも分けへだてなく、一人一人に目をかけ、公平にそれぞれを盛り立ててくれる。

その温かな目、優しいこころは、「ふるさと農園」「梅エ・田んぼ」「えんがわ産直」「地域構想学」「書道講座」「哲学の道」などを生み出している。こころは、それぞれの生きがいがあり、幸せをもたらす

学びのすがたがある。

気仙川源流の小さな集落、住田町上有住の土倉には、自然の恩に報いつつ、互いに信頼し、尊重しあう人間関係がある。かつて池上先生はこう言われた。

「ここに来ると不思議と元気が出るんですよ。ここに来るのが楽しみなんですよ」「このアカデミア賞の受賞は住田のおかげです。近著『学習社会の創造』の出版は、住田固有の文化との出会いから始まり、社会思想史と現場での研究から生まれたものです」と話された。

この本に買われているのは、個性的で自由を愛し、他人を思いやる温かな精神を育みあう人間観であり、「穏やかで互いに尊重しあう共に生きる」社会像である。限りない人間愛、人間行動への厚い信頼で紡がれてきたこの地の風土である。およそ2400年前、プラトンが思い描いた学びのすがたに、ふるさと創生大学が通じてはいないだろうか。

この「アカデミア賞」は、脈々と息づく山林の暮らしのなかに、人間が、人間として、人間らしく生きている真実があることを論証した研究への評価でもある。先人の営みの道を、今、私たちは歩いている。

③ 市民大学院講義・研究会の開催予定について

4月からの市民大学院関係の講義・研究会については、

一般社団法人文化政策・まちづくり大学 HP (<https://www.shimindaigakuin.site/>)に掲載してあります。ご参照下さい。

発信元 国際文化政策研究教育学会

600-8433 京都市下京区高辻室町西入る繁盛町 290 番地 旧成徳中学校 2 階

電話 075-354-9510. ファックス 075-354-9520

E-mail office@icp-education.org